

2018.4.1 第1195号  
ISSN 0913-0217

発行人/長 瀬 清  
編集人/山 科 賢 児  
発行所/北海道医師会  
〒060-8627  
札幌市中央区大通西6丁目  
TEL(011)231-1432  
FAX(011)221-5070

# 北海道医報

2018  
4  
月号



北海道 美の遺産

尾山 幟

彩苑

釧路市立美術館 所蔵

# CONTENTS

北海道医報  
平成30年4月1日 第1195号

指標／超高齢社会到来に備えてー平成30年度事業計画ー	長瀬 清	3
医の倫理綱領		8
北海道医師会公示・告示		10
報告／平成29年度北海道医療・福祉関係職能団体等意見交換会	藤井 美穂	12
報告／平成29年度病院管理研修会	伊藤 利道	14
報告／平成29年度北海道病院団体懇談会	伊藤 利道	16
報告／平成29年度地域医療住民活動懇談会	伊藤 利道	18
報告／平成29年度医師の勤務環境の整備に関する病院開設者、 病院長・管理者等への講習会	藤井 美穂	20
郡市医師会だより／平成29年度 札幌市医師会医政講演会	荒木 啓伸	22
税務相談室／所得の考え方	中村 孝一	23
専門部から／「日本医師会生涯教育講座・北海道医師会認定生涯教育講座実施要領」 一部改正について（お知らせ）	櫻井 晃洋	24
医師のための法律相談コーナー／基礎から確認ワークルール（2） ー労働基準法と就業規則・試用期間の基礎知識ー	矢吹 徹雄、高橋 和征	26
会員のひろば	佐川 昭、羽賀 将衛、小林 良二	
工藤 峰生、北島 義盛、丹羽 祐勝、東 英二、安井 隆弘		
田口 浩之、田村 修、真鍋 邦彦、鈴木 直己、池田 雄祐		
佐藤 英嗣、下田 和夫、人見 知洋、佐々木 伸彦、藤根 美穂		28
ポラリスを仰ぐ北の大地から	森 利光、祁答院 尚嗣	42
大通公園を望む窓辺から	深澤 雅則、恩村 宏樹	43
医学会・医学講演会等 開催情報		44
中央44 道南45 後志45 日胆45 空知46 道北46 北見47 道東47		
日医認定健康スポーツ医制度再研修会開催一覧		48
日医認定産業医制度研修会開催一覧		49
その他開催情報		49
訃報		50
新規指定医療機関		50
道医の動き		51
会議室／第23・24回常任理事会、第7回理事会		52
売貸医院・医師招聘情報		60
道医師国保の頁		64
コーヒーブレイクMedico's Column		72
季節風／《絵画史上、最強の美少女》イレーヌ嬢の数奇な運命とワインミステリー	橋本 洋一	74

## お知らせ

特別児童扶養手当・障害児福祉手当・特別障害者手当 認定診断書を作成される医師の皆さまへ⑨／身体障害者手帳 診断書・意見書を作成される医師の皆さまへ⑨／「医師資格証」を持ちましょう⑪／北海道医師会 育児サポート事業のご案内 病児・病後児の預り時に、ぜひご利用ください！⑬／平成29年度生涯教育申告書提出期限の変更について⑮／北海道内科医会並びに日本臨床内科医会のご案内⑯／北海道医報「会員のひろば」投稿募集⑳／電子メールによる会員への情報提供についてーメールアドレスの登録ー㉑／平成30年度生活習慣病予防のための人材育成研修会～特定健診・特定保健指導従事者 初任者研修～㉒／北海道医師会は、北海道に在住するすべての医師が利用できる女性医師等支援事業を推進しています。㉓／グループ保険のご案内⑦③

北海道医師会会員数	8,372名 (+1)	うち日本医師会会員数	5,888名 (-2)		
A	2,454名 (-3)	B2	4,678名 (+4)	C2	127名 (±0)
B1	605名 (+1)	C1	107名 (±0)	C3	401名 (-1)

平成30年2月28日現在 ( ) 内前月比

## 作品紹介

### おやまのぼり 尾山 幟 彩苑

1921（大正10）年～1995（平成7）年

釧路市生まれ。

1953（昭和28）年の作品。紙本彩色（133.4×188.1cm）。

多摩美術専門学校日本画科卒業後、釧路高等女学校（現在の釧路江南高校）の美術講師を勤めたが画家を志し、1951年再上京。恩師・中村岳陵の研究会「蒼野社」に入塾。同年、「緑苑」が日展に初入選。翌年には最高賞の特選を受賞、1955年、再度特選を受賞。この連続受賞により日本画壇に躍り出た尾山は、点描で

## 北海道美の遺産

写真・資料提供：釧路市立美術館  
（釧路市常盤町4番28号 釧路市生涯学習センター3階 0154-42-6116）

描き出す花鳥画の世界に高い評価を得た。その後も日展と個展を中心に活躍した。尾山の自然への関心と畏敬の念は、長い創作の時間を経てたどり着いた、画家としての哲学ともいえよう。

◇ ◇ ◇  
日本画の特徴は、墨、岩絵具、胡粉、染料など天然絵具を画材としており、美しい発色は半永久的に保ち続ける。岩絵具は砕いた粒子が荒いと濃く鮮やかな色になり、細くなると白っぽく淡くなる。本作品も色の重ね方や混ぜ具合で、彩り豊かな配色や濃淡で独特な深みを表している。極彩色と白色の孔雀がアクセントになり、長い羽根の模様を一枚一枚緻密に描いている。美しい花々の中で優雅に並ぶ孔雀のすまし顔が何とも愛らしい。